

◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 西川木楽会

代表者：代表 吉野 勳

URL : <http://www.kirakukai.org/>

1. 活動が必要とされた状況

地球温暖化防止に、循環可能な無限の資源としての木を地域づくりに活用することが求められる時代です。今、山には有り余るほどの木がありながら、市街地には木が使われていません。地域の木を使い、安心安全な暮らせる地域づくりに適う「プラン」と「作品」を募集します。

応募者のプランの実現化や作品の商品化を応援くださる方との出会いの場をつくることにより、地域の木の活かし、森林と市街地のより良い関係ができる「一本の木」オーディションを企画・実施しました。知産地生を目指す私たちの提案を小さな苗木とし、参同者と一緒に大きな『一本の木』となるように育てたいと思っています。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・駿河台大学、飯能商工会議所、西川広域森林組合、西川木楽会で実行委員会を構成し、平成26年7月10日～10月10日に募集して、平成26年10月25日、26日に「一本の木」オーディションを駿河台大学で開催しました。その作品集が3月に完成予定です。
- ・木作品が12点、プランが8の応募をいただきました。



- ・共催4団体、企業15社と個人5名の方からの応援をいただきました。
- ・当日は「語り場エンドレス」で、山と暮らしを結ぶための話し合いを行いました。
- ・「キムランド」（木村さんと遊ぼう）と称し、当日の参加者が木村さんの木のオモチャや木作品を見たり触れたりできる遊び場コーナーを設け、木に親しんでもらいました。
- ・当日は2日間で200人ほどの参加者があり、応募者と応援者との出会いがありました。

3. 活動の成果

- ・応募者と応援者の出会いとその商品化や実現性を直接の話合いが出来ました。
- ・「一本の木」のキャラクターを作り、名付け親を募集し「すぎるん」が誕生しました。
- ・かたり場エンドレスでは「山と市街地を結ぶ」ための今後の手がかりや1回目の作品の商品化に向けての、経過報告がされました。
- ・作品集は、出展作品の商品化に向けた今後の広報活動にも活用していきたいと思えます。

4. 今後に残された課題

- ・作品・プランの商品化・実現化のため、常設の出会いの場を設けることが課題です。
- ・「一本の木」を運動として、継続できる体制・仕組みを、どう構築をするかが課題です。